

# 東京モーターショー 中小が飛躍する好機

ジョイントメーカーの協和工業(本  
社大府市横根町坊主山一ノ三、鬼頭  
佑治社長、電話0562・47・12  
41)は、「東京モーターショー」  
(TMS、十月二十三日開幕)への  
七回目の出展を決め、準備を進めてい

## 協和工業

る。出展者の中でも会社規模は最小ク  
ラスの同社だが、「大手が開発投資を  
抑える不況時こそ、中小零細が技術を  
売り込むチャンス」と話す鬼頭社長に、  
TMSに初めて出展した当時を振り返  
ってもらった。

(大府)

## 7回目出展へ 鬼頭社長に聞く



鬼頭佑治社長

### ●世界に目を

同社がTMSに初出展したのは一九九七年。バブル崩壊で景気は下降の一途。

取引先の多角化に走った。そんな中、周囲は、なぜ今改めて自動車に関わるのか、不思議がったという。当時について鬼頭社長は「コスト一本やりの風潮に違

# 初出展でトヨタと取引

## 冷間鍛造 ジョイントなど 内外各社へ事業拡大



07年のTMS協和工業ブース

が、高い強度と精度が実立ち寄ったことから、冷間鍛造のステアリングジョイントが認められ「ブリス」 「オーバ」さらに「カローラ」で採用されていった。「カローラ過去六回の出展で、大手自動車メーカー、産業車両、農業機械メーカーなどの取引を次々に成り立たせてきたが、初出展の時にはトヨタ自動車と取引するチャンスをつかんだ。

### ●サクセス ストーリー

過去六回の出展で、大手自動車メーカー、産業車両、農業機械メーカーなどの取引を次々に成り立たせてきたが、初出展の時にはトヨタ自動車と取引するチャンスをつかんだ。

### ●宿命

当時のトヨタは、奥田

鬼頭社長は、「もともと、ジョイントに既存マーケットはなく、わが社は需要を新規開拓し続ける宿命を負っている」と話す。必ずチャンスをも

自動車不況が懸念され、和感があつた。TMSに製造業はコストダウンに必死。部品メーカーは「脱自動車」を指して

冷間鍛造 ジョイントなど

思った」と話す。同社は、超えた部品調達を提唱したところ。トヨタのエンジニアが協和ブースに